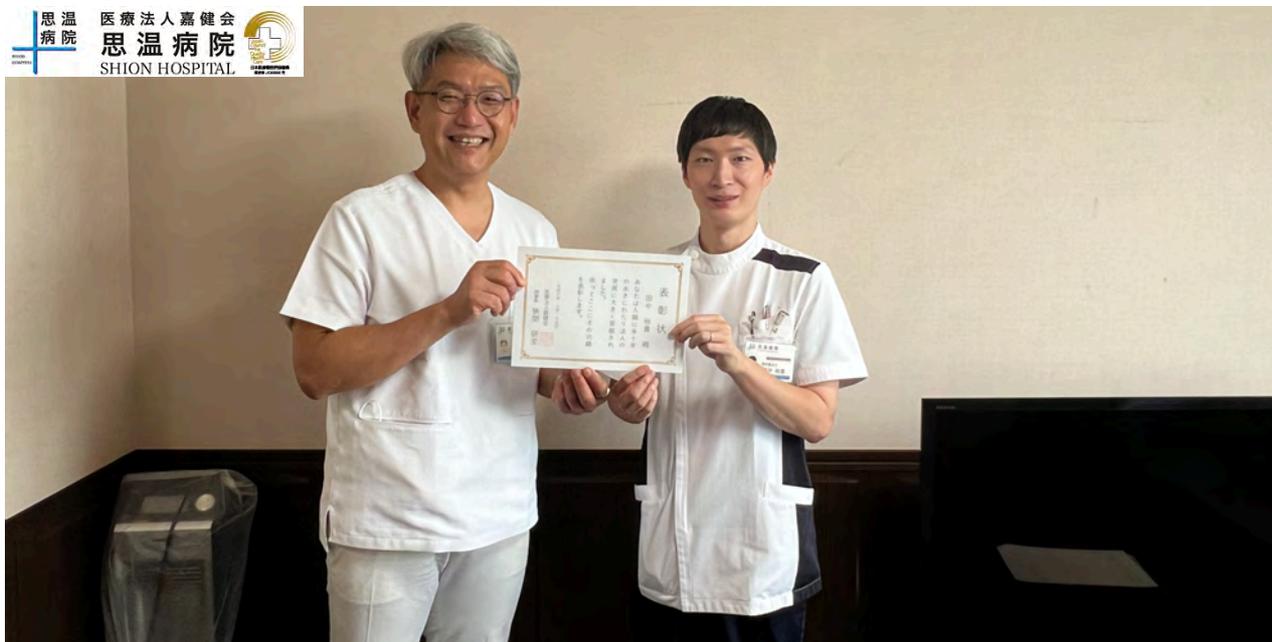


しおんだより VOL.47



リハビリ科田中さんの10年勤続を表彰しました

私が社会人になった30年ぐらい前は、まだまだ終身雇用が一般的だった時代でした。しかし、まさに、今や昔。

最近の若い者は、なんていうと、年取ったなあと思うのですが、なかなか長期に亘って同じ職場でがんばるといふ風潮ではなくなってきました。

もちろん、過労死するまで働くことはありませんし、世の中に沢山の職場があるわけですから、ムリして合わない上司や同僚、部下たちと働く必要はありません。ただ、あまりそれが行き過ぎて、ちょっとしたことで、場合によっては、退職代行のサービスを使って「もう辞めます。行きません。」ということになるのは、頑張る機会や成長する機会を逃してしまうような気がするの、まあ、私がいっきとした昭和生まれの人だからですから、今の時代にあった仕組みを考えていくことが重要だと思います。

そんな背景があるものですから、「10年勤続表彰」の機会は、なんともうれしいものです。「10年間どうでしたか？」と聞くと「あっという間でした！」と。「病院変わりましたよね？」という「変わりました！」とのお答えでした。一緒にこの病院を10年間もり立ててこられてきたことを、うれしく思いました。まずは、10年、お疲れさまでした。旅行の特典がございますので、是非、リフレッシュしてきてくださいね！

当院では、一定期間勤務を継続していただいた方には、表彰状をお渡しし、副賞として1週間の旅行をプレゼントしております。

来て頂くだけでなく、こちらからも行くことが重要です

一昔前の病院や診療所は、いかに近隣の患者さんに聞いていただくのか、ということ念頭に色々なソフトやハードを作ってきたのだらうと思います。しかし、高齢化が進み、認知機能や身体機能が低下していくと、医療機関に行くと言うことが困難になる患者さんの割合が増えてきました。そういう場合には、医療機関から患者さんのもとに赴く、訪問診療や往診が必要になってきますが、当院も、10年ほど前からドクターが、医療が必要だけれども通院が困難な患者さんのもとにおうかがいできる体制を整えています。

また、外来に通っていただいている患者さんの病状が少し不安定になり入院していただくというケースもありますが、その数は決して多くなくなってきました。今、増えているのは、いわゆる大きな病院で高度な医療を受けられて生命の危機は乗り切ったけれども、直接自宅や介護施設に帰ることが難しい患者さんを、当院でお受けして、投薬の調整や栄養療法、リハビリテーションを行って、ご自宅等で療養できるところまで患者さんの状態を改善し、退院していただくというケースです。そういった方の場合、ご自身で転院しづらいケースもありますが、ここで救急車を使うことは適切ではありません。そういった意味で、当院では、専用の車両を2台用意して、患者さんのお迎えに向かっています。白地に青いラインが入ったクルマを見かけられるかも知れませんが、それは、このような業務を行っているのです。



当院には、ストレッチャーが乗るバン型のクルマが2台、訪問診療などにも使える乗用車が1台あり毎日、患者さんのもとへと向かっています。

秋の学会シーズンが始まりました

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、医療関係者の間では色々な専門家が年に1度は集まり、その時々テーマや課題について話し合い、研究成果を共有する学会（学術大会）があります。シーズンとしては春と秋が多く、今年も、いくつかの学会があり、当院からも何名かが京都、千葉、札幌などに赴き発表します。

また、地元の医師会や薬剤師会等が企画する講演会も気候が良くなる秋は多く開催されます。先日、その一つに呼んでいただき、鹿児島に行き参りました。ホテルに入り前を見ると桜島が…！これも醍醐味の一つですね。（文責：狭間研至）



講演に呼んで頂いた鹿児島で、窓から外を見ると、桜島が噴煙を上げていました。

しおんだより 第47号 発行日：令和6年9月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp